

学校法人 滋慶学園 東京スクールオブミュージック&ダンス専門学校

2020年度 学校関係者評価委員会 評価結果

2020年度自己点検自己評価(2020年4月1日～2021年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3	<p>学校法人滋慶学園 東京スクールオブミュージック&ダンス専門学校は、学校法人滋慶学園グループ(※1)に属し、「職業人教育を通じて社会に貢献していく」ことをミッション(使命)としている。</p> <p>「3つの建学の理念」(「実学教育」(※2)「人間教育」(※3)「国際教育」(※4))を実践し、「4つの信頼」(①業界の信頼 ②高校の先生の信頼 ③学生と保護者の信頼 ④地域の信頼)を得られるように学校運営をしている。</p> <p>建学の理念に基づき、東京スクールオブミュージック専門学校は音楽、エンターテインメントを通して、人に喜びや感動を与えられる、業界で「即戦力」となる人材育成を目的として学校運営をしている。</p> <p>現在、音楽、放送、エンターテインメント業界を取り巻く社会の環境は大きく変化している。</p> <p>職業の現場で求められる知識・技術の高度化や、より付加価値の高い人材の必要性を背景に、本校では、2年制課程のみならず、3年制課程も設置し、また、『産学連携教育システム』により、様々な変化にも対応できる人材の育成を実現してきた。</p>	<p>(※1)「学校法人滋慶学園グループ」昭和51年の創立以来、「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことをミッションに掲げ、全国に専門学校・教育機関を設置し、業界で即戦力となる人材育成のため、建学時から変わらない「3つの理念」(実学教育、人間教育、国際教育)と「4つの信頼」(業界からの信頼、高校の先生からの信頼、学生・保護者からの信頼、地域からの信頼)を実践することで、理想の教育実現を目指す。</p> <p>医療・福祉・美容・調理・製菓・バイオ・スポーツ・クリエイティブ・エコ・音楽・ダンス等、多岐にわたる分野で北海道から福岡まで約70校を有する。</p> <p>(※2)「実学教育」 スペシャリストが求められる時代に即し、業界に直結した専門学校として、即戦力となる知識技術を教授する。一人一人の個性を活かし、それぞれの業界で力が発揮できるように構築された『滋慶学園グループ独自の教育システム』。</p> <p>(※3)「人間教育」 開校以来、『今日も笑顔で挨拶を』を標語に掲げ、他人への思いやりの気持ちやコミュニケーション能力、リーダーシップがとれる対人スキル等を身につけ、同時にプロ・社会人としての身構え、心構え・気構えを養成する。</p> <p>(※4)「国際教育」 コミュニケーション言語としての英語を身につけるだけでなく、日本人としてのアイデンティティを確立した上で、広い視野でモノを捉える国際的感性を養う。</p>	<p>【評価点:3点】</p> <p>学校側の理念などはよく周知されており、姉妹校との交流もあるように感じている(高橋氏)</p> <p>プロ・社会人としての身構え・心構え・気構えを理解し、育成することはとても良いと感じます(染川氏)</p> <p>ミッションが授業に反映されていると感じます(藤井氏)</p>
	1-2 学校の特色は何か				
	1-3 学校の将来構想を抱いているか				
2 学校運営	2-4 運営方針は定められているか	3	<p>諸環境の変化に対応できるように、事業計画については、滋慶学園グループが毎年、長期・中期・短期展望をし、事業計画を作成している。</p> <p>それを受けて、滋慶COMグループが短期事業計画を作成するが、そのもとになるのが、滋慶COMグループに属する各学校が作成する短期事業計画であり、毎年作成しているこの事業計画書が各学校における運営の核となるものである。</p> <p>事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決議を受け、承認を得ることになっている。</p> <p>それを受け、各学校では毎年3月に事業計画を全教職員へ周知徹底するための研修も行っている。事業計画においては、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取り組み、職務分掌、各種会議及び研修等々についてが明確に示されている。運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点にたって行われる。事業計画書の組織図には学校に係わる人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。</p> <p>学校がもっとも大切にしていることとして、滋慶学園グループの中期・短期の事業計画に沿って、採用と人材育成行い、様々な研修において目標達成に向け、スタッフのスキル面とマインド面の向上を図り、また関わるすべての人が学校の方向性、学校の方針の実現に向けて同じ方向を向くために、各種研修や会議、ミーティングにより、コミュニケーションの重要性を確認している。</p>	<p>各学校における事業計画書は、広報・教務・就職と、学校におけるすべての部署について考えられ、また、すべての部署が同じ方針・考え方を理解し、徹底している。</p> <p>学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、様々な研修や会議が設けられ、この研修、会議を通じて、個人個人の目標設定及び業務への落とし込みを行い、また常に方向性、位置づけ等を確認できるシステムを構築している。</p> <p>さらに、学校全体としてと、各学科における「3つのポリシー(アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー)」を掲げ、全職員と共有が出来ている。</p>	<p>【評価点:3点】</p> <p>学校運営についてはそれぞれの分野で意思疎通ができていていると思います。高校側からの広報等の要望に対しても迅速に対応する姿がみられ、良好と考えるところです。(関氏)</p> <p>規模が拡大するほどミッションの統一は難しくなるものであるが、その辺りの意思疎通含め、スケールメリットを活かした細かい学生へのフォローもなされているようですので、素晴らしいと感じます(池田氏)</p> <p>運営は正しくされていると考えます(藤井氏)</p>
	2-5 事業計画は定められているか				
	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか				
	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか				
	2-8 意思決定システムは確立されているか				
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか					

<p style="text-align: center;">3 教育活動</p>	<p>3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか</p> <p>3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか</p> <p>3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか</p> <p>3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか</p> <p>3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか</p> <p>3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p> <p>3-16-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか</p> <p>3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</p> <p>3-18 資格取得の指導体制はあるか</p>	2	<p>職業教育は常に業界と密接な関連を持たなければ、教育目標、育成人材像は正しく方向づけられないと考えており、業界の人材行動を常にキャッチし、その変化に対応して養成目的や教育目標の見直しを毎年実施している。</p> <p>本校は教育システムとして、独自の「産学連携教育システム」を構築しており、このシステムにより、業界と乖離することなく、業界で即戦力となりうる人材を育成、輩出できている。</p> <p>教育目標達成のためのカリキュラムは、入学前から卒業まで、体系的に編成されているが、常に音楽/ダンス&アクトー教育部会等で研究、見直し等を行っている。カリキュラムは学科(専攻)に関わるもののみならず、社会的・職業的自立を目指し、「キャリア教育」の視点に立ったものになっている。</p> <p>授業改善、教職員・講師の資質向上等を目的とし、授業評価を実施しているが、これを通して講師や学生の状況を正確に把握し、総合的な判断ができる要因となっている。</p> <p>成績評価・単位認定の基準を明確にし、学生指導を行っているが、明確な基準と共に、柔軟な対応ができる余地を残すことで、すべての学生が学科の目標を達成した上で、進級・卒業できる体制を作っている。</p> <p>資格取得については、業務を行う上で必要な資格、就職に有利な資格という範囲で取得に向け、支援を行っている。</p>	<p>開設以来、教職員の目標として、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門就職率 100% (就職者/専門分野就職者) 2. 退学率 0% (入学者は全員卒業してもらう) <p>を掲げ、その達成のために構築した2つの重要なシステムを構築している。第1のシステムは入学前の自己発見→自己変革→自己確立という、自己3段階教育と、動機づけ・目的意識づけプログラムである。</p> <p>入学前からの一貫した育成システムと目的意識をもって取り組むプログラムの組み合わせにより、モチベーション向上を果たしている。</p> <p>第2のシステムは、即戦力としての実践的技術・知識、ビジネスマインド等を身につけるための教育システムー「産学連携教育システム」である。</p> <p>これには、次の6 つが挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①企業プロジェクト ②ダブルメジャー・カリキュラム ③業界研修 ④海外実学研修 ⑤特別ゼミ ⑥就職・デビュー事務局 である。 <p>また、教育システムのさらなる開発のため、滋慶COMグループの音楽系全校から構成する「パフォーミングアート教育部会」「ダンス&アクトー教育部会」を設置し、システムの共有化、レベル向上化を図っている。</p> <p>主な研究内容は、①教育指導法・技法の開発 ②カリキュラム検討 ③生涯教育プログラム ④教職員研修 ⑤国際教育システム開発 ⑥イベント・卒業研究の運営 等である。</p>	<p>【評価点:2点】</p> <p>現場という場所だけでなく、学校という場所の意義がもう少し優先されるべきかと考えます。現場とのつながりは就職へ繋がります。しかし、机に向かって学んだことがいま役立っております。(高橋氏)</p> <p>音楽業界全般の企業と幅広く産学連携の教育システムが構築されていると考えます。最終的な教育の目標は音楽ダンスを通し、人格の完成を目指すであってほしい。(関氏)</p> <p>一流の作品を体感させ、表面を見せるだけではなく、第三者の目線から考え当事者の感覚にするというような疑似体験教育ができると学生全体のモチベーションの向上にも繋がると考える(柴川氏)</p> <p>業界からは、新しい音楽ビジネスの潮流に対応した授業(教育)が行われることが望まれていると思います。(藤井氏)</p>
<p style="text-align: center;">4 教育成果</p>	<p>4-19 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか</p> <p>4-20 資格取得率の向上が図られているか</p> <p>4-21 退学率の低減が図られているか</p> <p>4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p>	2	<p>教育成果は目標達成の努力の結果であるが、本校では、専門就職率(就職者/専門分野就職者)100%、退学者0名 を教育成果の最終目標に学校運営を行っている。</p> <p>就職では、高い就職率を維持しているが、専門就職率、就職対象率の向上も課題として取り組んでいる。</p> <p>退学率では、今後も学生個々の徹底したフォロー、カリキュラムの工夫、担任・副担任制度の強化、学生カウンセリングの強化等々を実施し、退学率0%達成に向け、努力を惜しむことはない。</p>	<p>教育成果の1つである就職は、年々、専門就職率が向上しているが、早期就職決定を目標に努力を続けている。</p> <p>また、できるだけ多くの学生に夢をかなくて就職するよう、就職対象者率の向上も大きな課題である。</p> <p>学生が目標を達成できるように、保護者と三位一体となり、支援する体制作りを行っている。</p> <p>退学率では、転科・転専攻等の個別カウンセリングの強化、支援クラスの立ち上げなど、現状以上に体制を整え、1人でも退学者を出不さない学校になるべく、最終目標である0%に向け、さらなる努力を重ねたい。</p>	<p>【評価点:2点】</p> <p>専門学校である以上、全員が専門職に就職するのが理想です。パフォーマンス分野においてデビューに時間がかかることが多いので、デビュー等の機能を強化し、オーディションの回数を増やす等卒業後の進路のフォローアップを促進するなど工夫が必要である。(菊池氏)</p> <p>もちろん就職率100%は大切だが、いまの時代にマッチした「働く意義」をもっと学生に教えてほしいです。「働く喜び」をどのように伝えるかも成果に表れない部分として大切かと思えます。(池田氏)</p> <p>音楽ビジネス環境がタフになってきているため、就職したあとが厳しい状況であると聞いている。そのあたりの向上も必要であると考え(藤井氏)</p>

<p style="text-align: center;">5 学 生 支 援</p>	<p>5-23 就職に関する体制は整備されているか</p> <p>5-24 学生相談に関する体制は整備されているか</p> <p>5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</p> <p>5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか</p> <p>5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか</p> <p>5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか</p> <p>5-29 保護者と適切に連携しているか</p> <p>5-30 卒業生への支援体制はあるか</p>	<p style="text-align: center;">3</p>	<p>本校では、学生が目標を達成できるように、物心両面の環境を整備していくことで支援に繋がると考える。 しかし、支援はあくまでも支援である。例えば、健康の維持は学業目標達成には欠かせない事項であり、本校でも健康診断にとどまらず、多くの支援体制を築き上げているが、学生本人が健康管理についての自覚を持たない場合、支援は効果が無い。 それゆえ、学生支援はまず学生の自立的行動を促すことから始めている。 学生支援には、①就職 ②学費 ③学生生活 ④健康 などの分野で行っているが、それぞれの分野で対応できる担当部署及び担当者を置いている。 ①就職については、専門部署であるキャリアセンターを設置し、担任との強い連携をとりながら、就職の相談、斡旋、面接他各種指導などの支援をしている。 ②学費については、相談窓口として事務局会計課を置き、提供できる学費面でのサービスをアドバイスするファイナンシャルアドバイザーにより支援している。 ③学生生活については、担任及び副担任制により行うが、それ以外にも滋慶トータルサポートセンターという悩みや相談を受ける専門部署を置き、支援している。 ④健康については、滋慶学園グループのクリニックである慶生会クリニックが担当し、在学中の健康管理を支援している。 また、学生の課外活動であるサークル・同好会について、学校が年間予算を計上し、担当者を配置して、支援し、学生満足度アップに貢献している。</p>	<p>滋慶学園グループでは、「学生はゲスト」というコンセプトがあるが、本校でもこのコンセプト通り、学生を第一に考え、様々な支援体制を整備している。 その中でも、「就職」は学生が目標を達成し、業界で活躍するための最重要事項であり、本校では非常に力を入れており、キャリアセンターという専門部署を置き、専任のスタッフを配置している。 キャリアセンターは、業界現場での実践研修である「業界研修」の指導から、個別相談、就職対策講座、就職支援イベント開催、就職斡旋等々、就職に関するあらゆる支援を行っている。 また、求人情報等を学生が自宅のパソコンでも閲覧できる就職支援システム「サクセスナビ」、一斉メールなどシステムの構築をもし、迅速な対応ができるように支援している。 このような支援体制の結果、高い就職率を誇っている。 さらに卒業生に対しても転職の相談や、就職イベントへの参加斡旋等を通じて支援を怠らない。 「就職」と並ぶ重要項目である、「教育」については、教育環境を整備し、成果を上げている。 即戦力の人材を育成するための施設・設備、機材等々を完備し、また業界ニーズとブレのないカリキュラムの構築、業界第一線で活躍する講師陣による授業など、オンリーワンを目指す学校として十二分な体制を確立している。 学生の経済的側面に対する支援としては、奨学金に関する専任スタッフを配置し、細やかな支援を実施している。 また、精神的・肉体的に通常のクラスでは授業についていけない事情を抱えた学生のため、滋慶トータルサポートセンターと連携し、専任スタッフとともにサポートをしている。</p>	<p>【評価点：3点】</p> <p>就職先の候補が増えていることは素晴らしいと思います。(高橋氏)</p> <p>学生への支援システムは他校にはないシステムが備わっていると思います。強いていうのであれば、昨今の国際化の進展のため、留学生に対するサポートの充実をさらにできればと考えます(関氏)</p> <p>求人サイドから見た「ほしい人材」の育成ができていますが、自己アピール能力の向上を行えばさらに良くなると考える(染川氏)</p> <p>心のケアも大切かと思えます(井上氏)</p> <p>支援システムはよく練られていると考える(藤井氏)</p> <p>学生のマインド面のケアが今後は重要になってくると思えます。(佐藤氏)</p>
<p style="text-align: center;">6 教 育 環 境</p>	<p>6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</p> <p>6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</p> <p>6-33 防災に対する体制は整備されているか</p>	<p style="text-align: center;">3</p>	<p>本校は、業界で即戦力となり得る人材育成を目的としており、そのための教育環境(施設・設備、機材等)の整備は重要であるが、完備されていると考える。 学内の教育環境に留まらず、学外の環境(業界研修、学外実習、海外実学研修)も十二分に整備することが必要であるが、キャリアセンター、教務部、国際部が一丸となって、その整備を行い、教育効果につなげている。</p>	<p>オンリーワンを目指す本校にとって、教育環境である施設・設備・機材等は非常に重要な要素であり、それゆえ、どこにも負けない最新・最良のものを整備している。 毎年、事業計画で計画し、予算計上の上、計画通りに購入・更新等を行えているが、これ以外の学外教育環境も教務部、キャリアセンター、国際部が一丸となって整備しており、これは本校の大きな強みと考えている。</p>	<p>【評価点：3点】</p> <p>あとは持ち劇場、持ちアリーナがあると完璧かと思えます。(高橋氏)</p> <p>教育環境は施設設備を含めて充実していると思えます。(関氏)</p> <p>施設は十分であるが、もうランク上の環境を提供できることも可能と考える。そうすれば他校との差別化も出来上がると考える。(藤井氏)</p> <p>海外との提携により、グローバルにハイレベルな環境で学ぶ環境が構築されている。(川崎氏)</p>

<p>7 学生の募集と受け入れ</p>	<p>7-34 学生募集活動は、適正に行われているか</p> <hr/> <p>7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</p> <hr/> <p>7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか</p> <hr/> <p>7-37 学納金は妥当なものとなっているか</p>	<p>2</p>	<p>本校は、東京都専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(AO 入試等も)を遵守している。 また過大な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適切な学校募集ができるように配慮している。 さらに、広告倫理委員会を設置し、広報活動の適切さをチェックしている。 広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページを活用して、学校告知を実施し、教育内容等を正しく知ってもらうように努めている。 これらすべての広報活動等において収集した個人情報・出願・新入生の個人情報等本校に関わるものの個人情報は、校内に個人情報委員会を設置し、厳重に管理し、流出及び他目的に使用しないように、管理の徹底を図っている。 入学選考に関しては、出願受付及び選考日を学生募集要項に明示し、決められた日程に実施しているが、入学選考後は、「入学選考会議」により、可否を決定する。 なお、本校における入学選考は、学生募集要項にも明示している通り、「面接選考」及び「書類選考」であるが、その基準となるのは、「目的意識」である。 将来目指す業界への職業意識や具体的な目標がしっかりとれているかを確認すると共に、その目的が本校より提供する教育プログラム及びカリキュラムにおいて実現可能かを確認するもので、入学試験という名称のもと、学科試験を行うものではない。 学納金や預かり金、教材等の見直しを毎年行っており、学費及び諸経費の無駄な支出をチェックしている。 保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を学生募集要項に明記し、基本的に期中で追加徴収を行わない。</p>	<p>学生募集については、募集開始時期、募集内容等々ルールを遵守し、また、過大な広告を一切排除し、厳正な学生募集に配慮している。 広報活動では「学校の特色を理解してもらう」ことを強化している。 本校は専門就職を果たしてもらうことを第一目標としているため、入学前に職業イメージをどれだけ明確になっているかが大切と考え、体験入学や説明会への複数回参加を促し、充分理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。 教育成果として、高い専門就職実績と卒業生の活躍の打ち出しを強化しており、学生募集上の効果はかなり高いと考えるが、それゆえ、過大な広告にならないよう、学内に広告倫理委員会を設置し、事務局長、広報課長等が常にチェックしている。</p>	<p>【評価点：2点】</p> <p>学生募集の観点では、誇大広告をすることもなく開始時期、募集内容等ルールを守り、実施していると思います。目的意識の醸成やアドバイスするのは好ましい姿であると感じます。(関氏)</p> <p>疑問が解消した上で出願してもらうということは素晴らしく、重要なことと考えます(染川氏)</p> <p>御校は理想的な音楽の専門学校であると思うが、その特色が対象者(高校生)にうまく伝わっていないのではと考える(藤井氏)</p> <p>目的意識の確認が非常に大きな意味を占めるため面接選考、書類選考でしっかり伝えていくことが大切である。(根本氏)</p>
<p>8 財務</p>	<p>8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</p> <hr/> <p>8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</p> <hr/> <p>8-40 財務について会計監査が適正に行われているか</p> <hr/> <p>8-41 財務情報公開の体制整備はできているか</p>	<p>3</p>	<p>財務は、学校運営に関して、重要な要素の1つである。 その中で予算(収支計画)は学校運営に不可欠なものであって、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成する必要がある。 毎年、次年度事業計画を作成し、その事業計画の中に5ヶ年の収支予算を立てているが、次年度の収支予算はもちろんのこと、中長期的に予算を立てることによって、学校の財務基盤を安定させるための計画を事前に組んでおくのが目的である。5ヶ年の予算は、5ヶ年を見越した中長期的事業計画内で、新学科構想、設備支出等について計画し、将来の学生数、広報・就職計画を鑑みながら予測し、収支計画を作成するが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするため、より現実的に即した予算編成となっており、健全な学校運営ができていていると考えている。 会計監査は、法人及び学校の利害関係者に対して、法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために、第三者による監査人が法人とは独立し計算書類が適切かどうかを監査することを意味する。 平成17年4月から私立学校法が改正され、学校法人の財務情報公開が義務づけられたが、これに迅速に取り組み、「財務情報公開規程」及び情報公開マニュアルを作成し、現在に至っているが、財務情報公開の体制は整った。</p>	<p>予算を正確かつ実現可能なものにするための2つの要素がある。 ①正確かつ実現可能な予算の作成予算は短期的、中長期的の2種類がある。短期的は次期1期間のもの、中長期的は2～5年間のものである。 当学校法人及び学校では、短期的と中長期的の両方を事業計画書として作成し、短期的視野と中長期的視野の2つの観点から予算編成している。 短期的な予算編成は当年度の実績を基礎に次年度に予定している業務計画を加味して行われる。 中長期的な予算編成は主として大規模な計画を視野に入れた上で、業界の情勢を読み取りながら行われる。 正確かつ実現可能な予算作成のためには、一旦作成した予算が現実のものとならなくなった場合はそれを修正する必要がある。そのために短期的な予算においては期中に「修正予算」を組み、中長期的な予算においては毎年編成しなおすことになっている。 これにより、短期的にも中長期的にも正確かつ実現可能な予算編成を組むことができる。 ②①のための体制作り ①のように実現可能な予算作成するためには、その体制作りが必要になる。 事業計画・予算は学校責任者が協議して作成し、滋慶学園本部がチェックし、修正して最終的に理事会・評議員会が承認する体制を整えている。さらに、予算に基づいて学校運営がなされているかどうかは四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者と学園本部が協議し予算と実績が乖離しているようであれば修正予算を編成し、理事会・評議員会の承認を得る。作成した決算書、・事業報告書については、情報公開の対象となり、利害関係者の閲覧に供することとなる。</p>	<p>【評価点：3点】</p> <p>予算設定など明確である(高橋氏)</p> <p>健全な学校運営が行われていると考えます(関氏)</p> <p>引き続き透明性のある経営を期待します(染川氏)</p> <p>問題ないと思います(藤井氏)</p> <p>気になることはありません(根本氏)</p>

<p style="text-align: center;">9 法令等の遵守</p>	<p>9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</p> <hr/> <p>9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</p> <hr/> <p>9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか</p> <hr/> <p>9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか</p>	<p style="text-align: center;">3</p>	<p>法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。 法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会が学校運営が適切かどうかを判断している。 現状では、学校運営(学科運営)が適切かどうかは次ぎの各調査等においてチェックできるようにしている。 ①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基礎調査④専修学校各種学校調査等 である。 また、組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。 (A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ) (B)システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理士システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ) 滋慶学園グループ、COMグループと全体というスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健在な学校(学科)運営ができるようにしている。 法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できている。</p>	<p>3つ教育「実学教育」、「人間教育」、「国際教育」で「職業教育を通じて社会に貢献する」という建学の理念の実現を目指し、4つの信頼(「業界の信頼」、「高校の先生の信頼」、「学生・保護者の信頼」、「地域の信頼」)を確保するためにもコンプライアンス推進をはかる。 具体的には、すべての法令を遵守するとともに、社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。 方針実行のため、学内にコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを確実に実践・推進に当たらせることにした。 委員長は、統括責任者としての学校の役員が就任する。委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。 主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発の牛対策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書等の作成・配布である。監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象として、コンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。 今後は、コンプライアンス相談窓口の設置が必須であると考ええる。</p>	<p>【評価点:3点】 働き方改革の時代です。職員の皆様も意識改革を行うことでよりよくなることと考えます。(池田氏)</p> <p>法令遵守については、組織面システム面においても、しっかり守られていると確信しています。(西川氏)</p> <p>引き続き定期的な報告をお願いします。(田中(陽)氏)</p> <p>コンプライアンス相談窓口設置は素晴らしい取り組みと考えます(大澤氏)</p>
<p style="text-align: center;">10 社会貢献</p>	<p>10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか</p> <hr/> <p>10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</p>	<p style="text-align: center;">3</p>	<p>本校には、滋慶学園グループの「4つの信頼」(①業界の信頼 ②高校の先生の信頼 ③学生・保護者の信頼 ④地域の信頼)というコンセプトがある。 この「4つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。 企業プロジェクトへの参加や卒業生の活躍による「業界の信頼」。 業界企業や団体、あるいは小学校等の教育機関とタイアップして行う市民イベント、あるいは地域の方々と共同で行うイベントが「地域の信頼」に繋がっている。 また、スタッフが高校へ出向いて行う特別講義等では、「高校の先生の信頼」に繋がっている。 滋慶学園グループが推進する「地球温暖化防止対策」運動で行っている、節電、冷房温度28度設定、階段利用(2アップ3ダウン)や、イベント等におけるゴミ削減、資源有効利用等々は、学生本人のみならず、来校された保護者の方々からも高い評価を頂戴し、「学生・保護者の信頼」に繋がっている。 特別なことをするわけではなく、滋慶学園グループが掲げる「4つの信頼」の獲得を目指すことが、すなわち社会貢献を果たすことに繋がっていると考えている。</p>	<p>エンターテイメントを学ぶ本校では、教職員及び学生たちが、常に社会貢献を意識した活動を年間通して行っている。 教職員や各専攻の学生たちが、それぞれ特徴を活かし、幅広く、かつ意義のある活動を行っている。その活動が、「業界の信頼」、「地域の信頼」、「高校の先生の信頼」、「学生・保護者の信頼」という、滋慶学園グループの「4つの信頼」獲得に繋がりが、その結果が社会貢献を果たすことに繋がっている。 今後は、学校の施設や教育ノウハウ等を更に活かし、多様な社会貢献へ発展させていく考えである。</p>	<p>【評価点:3点】 良好であると考えます。(関氏)</p> <p>十分な社会貢献が行われていると考えます。(藤井氏)</p> <p>保育園・小学校・中学校等とのタイアップなど、地域と密着した取り組みは非常に評価できる。(西川氏)</p> <p>高校へ出向いてのレッスンは、双方にとって良い影響があると思います。(田中(涼)氏)</p>